安城更生病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムの特徴として、麻酔科研修にとっても恵まれた職場環境であると言える。高いレベルを誇る心臓手術や外科手術が多く、外科系医師は麻酔科医に極めて協力的である。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB-POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。総合周産期母子医療センターを有しており，超低出生体重児を含めた新生児症例やハイリスク妊婦の麻酔も豊富に経験できる．日本小児麻酔学会認定医の指導の下、同資格を取得できる。末梢神経ブロックの研修も積むこともできる。また出産･育児中にある女性医師をサポートできる体制がある。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．

- 3年目または4年目に地域医療の中核病院であるや岡崎市民病院、刈谷豊田総合病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院または名古屋市立大学病院、あいち小児保健医療総合センター、一宮西病院で研修を行う
- ３年目、4年目は専攻医のニーズに応じて小児麻酔、心臓麻酔などの特殊麻酔や集中治療、ペインクリニックを含む様々な症例を経験することも可能である
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する.

年間ローテーション表

	１年目	２年目	３年目	4年目
A	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔・ICU）	名古屋市立大学病院（麻酔・ICU）
B	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	あいち小児病院（麻酔）
C	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔・ICU）	刈谷豊田総合病院（麻酔・ICU）
D	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	岡崎市民病院（麻酔）
E	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔）	安城更生病院（麻酔・ICU）	一宮西病院（ICU・麻酔）

週間予定表

安城更生病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	麻酔	麻酔	麻酔	休み	術前外来	休み	休み
午後	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	休み	休み
待機			病院当直			麻酔待機	

1年目は病院のHCU・SICU当直が月2～3回、2年目から夜間・休日のICU勤務となる（月2回)。麻酔科の夜間休日当番は待機制である（月約4回)。

知識／技術の習得計画

・麻酔術前カンファレンス　月曜～金曜　8:20～8:30

・胸部外科（心臓血管外科、呼吸器外科）合同カンファレンス　木曜16:00～

・ハートチームカンファレンス　火曜16:30～

・症例検討会 毎日の麻酔術前カンファレンスと別に不定期に開催する
珍しい症例、麻酔管理に難渋した症例、合併症を起こしてしまった症例など
・院内講演会、研修関連施設で開催される勉強会や外部セミナーへ積極的に参加
・研修医勉強会

学会活動

日本麻酔科学会学術集会や専門医機構研修委員会が認める麻酔科領域学術集会への参加、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表する

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

愛知厚生連 安城更生病院

病院ウェブサイト URL http://anjokosei.jp/

研修実施責任者：森田 正人 syrch127@ybb.ne.jp

専門研修指導医：森田 正人 （麻酔、小児麻酔、集中治療）
山本 里恵 （麻酔）
谷口 明子 （麻酔、心臓麻酔、集中治療）
久保谷 靖子 （麻酔）
井上 雅史 （麻酔、集中治療）
田渕 昭彦 （救急）
久保 貞祐 （救急、集中治療）

専門医：太田 一志 （麻酔）
佐々木 貴久 （麻酔）
田中 万優子 （麻酔）

麻酔科認定病院番号 246（西暦 1996 年 麻酔科認定病院取得 ）

施設の特徴

１．愛知県西三河南部圏最大の中核病院で常に東海地区マッチング率上位であり、優秀な研修医が多いため病院中が活気に満ちている。他診療科が麻酔科に非常に協力的であり，有能なメディカルスタッフと協働できる恵まれた職場環境が整っている。

２．高いレベルを誇る心臓手術麻酔を経験できる。開心術に加えて、ステントグラフト内挿術、TAVI 手術や経皮的僧帽弁クリップ術等の血管内手術も多く行われている。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB-POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。

３．同様に他の外科系も名古屋大学を中心とした重要な中核病院であるため，レベルが高く多岐にわたる症例を経験できる．そのため麻酔管理能力の養成に適した環境で

ある。外科、泌尿器科、産婦人科、胸部外科でロボット支援下手術も行われている。
４．総合周産期母子医療センターを有しており，超低出生体重児を含めた新生児症例やハイリスク妊婦の麻酔も豊富に経験できる．日本小児麻酔学会認定医の指導の下、同資格を取得できる。
５．集中治療，救急も麻酔科が関与しているため希望があれば活躍の場が大きい。
６．手術麻酔において末梢神経ブロックを積極的に施行しており、十分な研修が可能である。日本区域麻酔検定試験（J-RACE）も多数が合格している。
７．出産・育児中にある女性医師をサポートできる体制がある。

②　専門研修連携施設A

あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者：　宮津　光範
専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）
山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）
加古　裕美（小児麻酔）
渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）
青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）
北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾（小児麻酔、QI）
川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション教育）
専門医：　中野　晃輔（小児麻酔、心臓麻酔）
森下　博隆（小児麻酔）
澤田　健　（小児麻酔）
手﨑　貴友（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。
＜当センターの強み＞

A.　概要

小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CTなどの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。

B. 独自の教育システム

高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。

C. 小児心臓麻酔

新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは３ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3Dコンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。

D. 学術活動

臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD; 博士（医学)」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH; 公衆衛生学修士（専門職)」、「MBA; 修士（経営学)」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU

麻酔科はPICUの運営には直接関与していないが、希望者はPICU研修が可能である。東海北陸地方最多である16床のPICUは、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らによりclosed運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児ECMOは全国トップクラスの症例数と成績を誇る。

F. 小児救命救急センター

ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

Ⅱ 岡崎市民病院

病院ウェブサイト https://www.okazakihospital.jp/

研修実施責任者：辻　麗

専門研修指導医：	辻　麗	（麻酔、心臓麻酔）
	辻　達也	（麻酔、集中治療）
	中野　浩	（麻酔、集中治療、救急）
専門医：	加藤　昇平	（麻酔）
	松本　圭	（麻酔）

麻酔科認定病院番号：423

施設の特徴

① 地域の基幹病院であり、ほぼ全ての診療科が揃っているため、豊富な麻酔症例を経験でき、麻酔管理能力を培うのに適した環境である。
② 西三河南部東医療圏唯一の第三次救急医療施設であり、年間約 9000 台の救急車を受け入れていることから、重症症例の緊急手術麻酔管理、術後管理を経験できる。
③ 麻酔科には麻酔科学会指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本集中治療医学会専門医、救急科専門医、日本心臓血管麻酔専門医、日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定医、日本小児麻酔学会認定医、日本区域麻酔検定試験（J-RACE）合格者が在籍し、指導体制が充実している。
④ 日本専門医機構認定集中診療科専門研修施設であり、集中治療専門医を目指した研修が可能である。
⑤ 日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB-POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。開心術およびステントグラフト内挿術、**経カテーテル大動脈弁留置術**などの成人心臓麻酔管理を経験できる。。
⑥ 地域周産期母子医療センターであり、超緊急帝王切開やハイリスク妊婦の麻酔を経験することができる。
⑦ 健康な小児の一般的な麻酔経験をすることができる。
⑧ 硬膜外麻酔、末梢神経ブロックなどの区域麻酔を積極的に施行しており、研修が可能である。
⑨ ICLS, AHA-BLS, ACLS, PEARS や JPTEC 等を院内で受講可能である。
⑩ 出産・育児中にある医師に対しては両立を積極的に推進している。

Ⅲ　医療法人豊田会　刈谷豊田総合病院

病院ウェブサイト　http://www.toyota-kai.or.jp/



研修実施責任者：山内 浩揮

専門研修指導医：山内 浩揮　（麻酔，集中治療，救急）
安藤 雅樹　（救急，集中治療）
黒田 幸恵　（麻酔，集中治療，救急，ペインクリニック）
吉澤 佐也　（麻酔，集中治療，救急）

	鈴木 宏康	(麻酔，集中治療，救急)
	小笠原 治	(麻酔，集中治療，救急)
	前田 洵哉	(麻酔，集中治療，救急)
	山田 貴大	(救急，集中治療)
	伊藤 遥	(麻酔，集中治療，救急)
専門医：	春田 祐子	(麻酔，集中治療，救急，ペインクリニック)
	川津 文子	(麻酔，集中治療，救急，ペインクリニック)
	長田 美保	(麻酔，集中治療，救急，ペインクリニック)
	磯谷 肇男	(麻酔，集中治療，救急)

麻酔科認定病院番号：456（西暦 1987 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

- 地域基幹病院であり、ほぼすべての診療科があり、豊富な麻酔症例を経験することができる。
- 常勤麻酔科医が 22 名と多数在籍している。日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会指導医・専門医、心臓血管麻酔専門医、JB-POT 認定医、J-RACE 認定医、日本集中治療医学会専門医、救急科専門医、ペインクリニック専門医が含まれ、指導体制が充実している。
- 日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、心臓血管麻酔専門医や JB-POT が取得できる。
- 救命救急センター指定を受けており、ICU/救命病棟 26 床を麻酔科が主導し管理運営している。すべての診療科の重症患者管理を経験することができる。専攻医 3 年目以上の集中治療専門医取得希望者には ICU 専従研修を行っている。
- 年間救急患者数約 25,997 名、年間救急車搬入台数 9,918 件(2025 年度)と愛知県内有数の実績を誇り、3 次救急の初期対応、緊急手術麻酔管理、術後管理をシームレスに経験できる。救急集中治療科主体でドクターカーを毎日運用し、麻酔科医も関わっている。
- 術後疼痛回診、ペイン外来(週 3 日)や緩和ケア病棟・緩和ケアチームを経験できる。

Ⅳ　名古屋市立大学病院

名市大麻酔科ウェブサイト URL　http://www.ncu-masui.jp/
研修実施責任者：祖父江 和哉　　kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：	祖父江 和哉	(麻酔，集中治療，いたみセンター)
	田村 高廣	(麻酔，心臓麻酔，集中治療)
	田中 基	(麻酔，周産期麻酔)
	杉浦 健之	(麻酔，いたみセンター)
	徐　 民恵	(麻酔，集中治療，いたみセンター)
	田村 哲也	(麻酔，集中治療)
	加藤 利奈	(麻酔，いたみセンター)
	藤掛 数馬	(麻酔，集中治療，いたみセンター)
	上村 友二	(麻酔，集中治療，周産期麻酔)
	佐藤 範子	(麻酔，いたみセンター，周産期麻酔)
	佐藤 玲子	(麻酔，いたみセンター)

横井 礼子　　（麻酔，周産期麻酔）
青木 優佑　　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
中井 俊宏　　（麻酔，集中治療，救急医療）
牧野 佑斗　　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
山添 大輝　　（麻酔，集中治療，いたみセンター）
長谷川 達也　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
永井 梓　　（麻酔，周産期麻酔）
吉村 真弓　　（麻酔）
友成 毅　　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

麻酔科認定病院番号：55（1968 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

大学病院として高度先進医療を提供するとともに， 名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している． 教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し， 幅広い分野での研修環境が整っている. 小児から成人まで豊富な症例があり, 小児麻酔, 心臓血管麻酔, 超音波ガイド下神経ブロック, ハイリスク妊婦の周産期麻酔など幅広く研修できる. 同時に, 集中治療（closed-ICU, PICU）の研修を通して, 麻酔から ICU までシームレスな管理を学ぶことができる. また、いたみセンター, 無痛分娩センターにおいても, 希望に応じて専門的な研修が可能である. その他, 病院併設のシミュレーションセンターでは, 年数回のハンズオン講習を実施しており, シミュレーターを用いた経食道エコーなどの練習が随時可能である.

Ⅴ　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

研修実施責任者：　寺澤　篤

専門研修指導医：　棚橋　順治　　（麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック）
寺澤　篤　　（麻酔、集中治療）
平手　博之　　（麻酔、集中治療）
杉本　憲治　　（麻酔、集中治療、国際救援）
田口　学　　（麻酔、集中治療）
古田　敬亮　　（麻酔、集中治療）
井上　芳門　　（麻酔、集中治療、国際救援）
村橋　一　　（麻酔、集中治療、救急）
藤井　智章　　（麻酔、集中治療）
牧野　樹　　（麻酔、集中治療）
濱田　一央　　（麻酔、集中治療）
森川　彰大　　（麻酔、集中治療）
奥田　馨都　　（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：632

施設の特徴：

1. 外科系のほぼ全てのすべての科の手術があるため、専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数はすべて自院で経験可能になっています。また、脊椎手術や生体腎移植手術も多く経験できます。
2. 日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設です。ICU の管理は麻酔科が強く関わっています。内科系、外科系を問わず重症症例の ICU における管理に従事することができます。
3. 救急車の受け入れ台数が、年間１万 2 千台以上の救命救急センターを有しており、重症救急患者の緊急手術症例の術前管理，術中麻酔管理，ICU での術後全身管理を一貫して学ぶことができます。
4. 日本心臓血管麻酔学会の心臓血管麻酔専門医認定施設であり，成人の心臓・大血管手術の症例数も豊富で，心臓血管麻酔専門医も複数人在籍して、学習環境は整っており、JB-POT 合格者も多数輩出しています。
5. 総合周産期医療センターであり、産科症例も豊富です。硬膜外分娩に麻酔科は積極的に従事しております。
6. 災害拠点病院であり、かつ国際救援部がありますので、将来的に国内、国外災害救護に携わることも可能です。
7. 休日を取得するシステムを明確化して、疲労しないような働き方をできる仕組みづくりをしています

Ⅵ　一宮西病院

研修実施責任者：坪内宏樹

専門医研修指導医

麻酔科指導医：坪内宏樹（麻酔，集中治療，救急）
川出健嗣（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔，ペインクリニック）
河野真人（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
杉野貴彦（麻酔，集中治療，救急）
民井亨（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
本田あや子（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医(FD講習受講)：細井麻里（麻酔）
前迫大樹（麻酔，心臓血管麻酔）
田中悠登（麻酔，集中治療）
小野千紗（麻酔）
酒井英恵（麻酔）
柳田祐貴（麻酔）
中鶴間優汰（麻酔）

専門医(1回更新済み)：桑折和華（麻酔）

認定病院番号1246

特徴：集中治療のローテーション可能

当院の麻酔科の特徴は、麻酔科が集中治療科も兼務し、院内・院外の重症患者管理を一手に引き受けていることが挙げられる。

当院ICUのシステムは、いわゆるクローズドシステムで、麻酔科医が専従医の全科対応のgeneral ICUである。毎朝のカンファレンスに際して、各部門の協力によりその日の検査結果、レントゲン写真が8時30分までに出揃い、医師のみならず、看護師、専従呼吸療法士、MEも常時参加し活発な討議が行われる。適定治療の実現と現場の混乱を避けるため、指示系統は、麻酔科医による一本化となっており、各科主治医の要望は、麻酔科医との綿密なコミュニケーションを通じて十分に反映されている。また、各部門の連携が非常に円滑に行われている。年間入室者数は900を超えるが、重症度は非常に高い。疾患分類は全科にわたり、院内発生・救急経由を問わず、外科系・内科系のすべての患者を引き受ける。

このように、当院では麻酔科が手術室での麻酔業務にとどまらず、集中治療科の運営を行い、院内急変対応、重症救急対応をも担っている。

現在、当院のような完全にクローズドシステムで麻酔科がICU管理を行っているのは、全国に多数あるICUのうち1～2割り程度しかないといわれている。

ぜひ、研修医諸君には、当ICUで、集中治療専門医が行う重症患者管理を研修し、けっして片手間ではできない、重症患者管理を専門にする医師だからこそおこなえる医療を経験して欲しい。

また、麻酔科医師が、その全身を診るという能力を、手術麻酔だけに留まらず重症患者を救うために活用する場面を研修し、付加価値の高い麻酔科医師となる研修が可能である。

Ⅶ　豊田厚生病院　http://toyota.jaaikosei.or.jp/

研修実施責任者：上原博和　anest.trust@gmail.com

専門研修指導医：上原博和（麻酔）
小島康裕（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）
岩伶（麻酔・小児麻酔）
伊藤雅人（麻酔・集中治療・小児麻酔）
酒井博生（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）
川口里奈（麻酔）
川口大地（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）

麻酔科認定病院（認定第1456号）

特徴：

・西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。
・地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり年間救急車受け入れ約8,000件を行っている。ドクターヘリによる搬送、ドクターカーの運用を行っている。
・成人心臓血管手術が年間160例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当することで経験値が多く得られる。
・Hybrid 手術室にて、EVAR・TEVAR・TAVI・LAAC 症例が増えている。
・硬膜外麻酔、末梢神経ブロックについてはそれぞれ年間150例以上修練が可能である。
・動画教育に力を入れている。麻酔手技 YouTuber「あねす亭ふぇん太」氏との独占提携により一般公開もしくは非公開の大量動画を閲覧することができ、各自のペースで手技に対する理解を深めることが可能である。
・麻酔時緊急状態には「緊急コールシステム」により瞬時に指導医群がヘルプに駆けつける事が可能である。
・術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「術前検査センター」機能の運用と「麻酔科術前外来」に携わることにより、雑務を極力アウトソーシングしつつかつ術前評価不足無く患者把握が出来る。
・ペインクリニック専門医指定研修施設である。超音波ガイド下神経ブロック、X線透視下神経ブロック（350例/年)、手術療法を積極的に取り入れており修練が可能である。
・麻酔科医主導で無痛分娩管理を行っており修練が可能である。
・日本緩和医療学会基幹施設であり、緩和ケア講習会を定期的に開催している。
・日本緩和医療学会指導医資格を有する麻酔科医を中心に緩和ケア病棟を運営している。
・麻酔科医が緩和ケアチームの一員として関わっており、がん性疼痛にも神経ブロック及び手術療法を積極的に施行している。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

- **採用方法**

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2023年 10 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する.

6. 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは,安城更生病院麻酔専門研修プログラムwebsite, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である.

安城更生病院　麻酔科 代表部長　森田正人

愛知県安城市安城町東広畔28番地
TEL 0566-75-2111
E-mail: syrch127@ybb.ne.jp
Website: http://anjokosei.jp/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

● 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる. また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる. 基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専

門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.

- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての岡崎市民病院、刈谷豊田総合病院，日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.